

小中学生のオリパラ観戦 ～当事者の声は～

新型コロナ感染に加え熱中症のリスクもある中で小中学生のオリパラ観戦。6月に入り菅首相が有観客での開催の意向を示すと、中止を求める世論が高まった。子どもと保護者の率直な声を聴くため、誘導的にならないよう配慮しつつ、情報提供もしながらアンケート調査を行った。

◆延期前から熱中症は課題

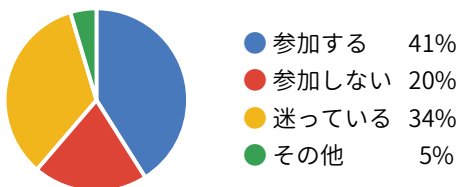
小中学生の観戦は調布市でも予定されていたが、開催は真夏。一昨年から熱中症を懸念する都内14自治体の307校が辞退するとともに、小学校1～3年生の観戦を見送る意向を示す都内自治体は7割に達していた。

◆コロナ禍で事実上、自由参加に

熱中症に加え、新型コロナである。子どもたちが負うリスクや保護者、教員など大人の責任はあまりにも大きい。調布市教育委員会は観戦を休んでも欠席にしないこととし、事実上自由参加とした。これにより、個々の事情に合わせて主体的に決断することが可能になった。

◆「参加する」が4割、でも拭えない不安

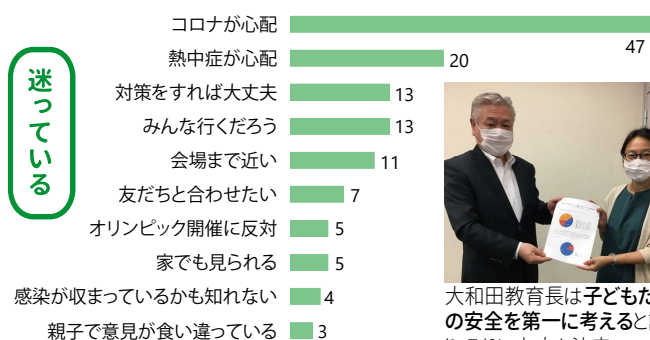
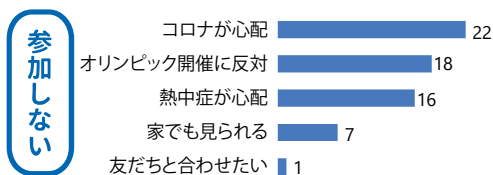
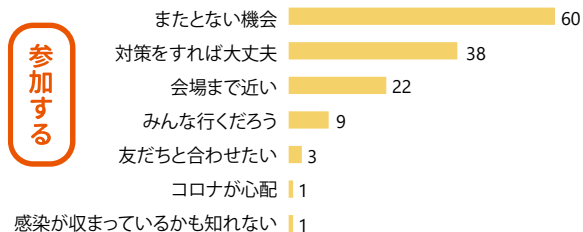
回答は瞬間に集まり、合計173件が集まった。無観客が望ましいとの有識者の見解は83.8%が知っていたが、欠席扱いにならないことを知っていたのは23.1%のみ。この2つの情報を踏まえた上での参加意思は、41%が**参加する**、34%が**迷っている**となり、**参加しない**は20%にとどまった。また**たどない機会**との思いが大きいようだった。



しかし**迷っている**だけでなく**参加する**を選んだ人からも熱中症や新型コロナ感染を危惧する意見が多数寄せられた。子どもが行きたがっている、友だちと合わせたい、周りも行くだろうなど、回答者の意向だけで決定することが難しい状況も垣間見られた。

6月28日に第1弾として回答104件分と緊急要望、7月2日に全回答173件分を教育長と市長に提出した。緊急要望には、観戦プログラムを子どもの最善の利益を柱として実施するために、小中学生や保護者への情報提供、具体的なリスク管理の提示、熱中症対策用品の支給、全員参加が前提の学校行事ではないことを明確に伝えること、参加・不参加の判断で子どもたちが不利益を被らないための最大の配慮などを求めた。また対策が十分講じられない場合は中止を求めたところ、教育長は「子どもたちの安全を第一に考える」と語った。

※その後、市教育委員会は独自に観戦中止を決定した。



大和田教育長は子どもたちの安全を第一に考えるとして、7/6に中止を決定。

活動報告

- 4/20 アーニ出版(性教育専門出版社)視察(右写真)
- 4/22 気候変動緊急アクション0422@調布駅前
- 4/23 教育委員会第四回定例会 傍聴
- 4/26 調布市議会 第一回臨時会
- 4/30 日野・生活者ネット 子宮頸がんワクチン学習会
- 5/4 『レポート2030:グリーン・リカバリーと 2050年カーボン・ニュートラルを実現する2030年までのロードマップ』学習会
- 5/8 市川房枝連続講座「女性の権利を国際基準に！～個人通報制度が使えたら～」
- 5/9 江東・生活者ネット「みんなで考えよう！これからのLGBT施策」
- 5/10-11 多摩住民自治研究所「第42回議員の学校」
- 5/12 第3回総合福祉センターの整備に関する検討会 傍聴
- 5/14 調布駅前南口広場の整備計画に関する全員協議会
- 5/15 多様な学びプロジェクト「多様な教育を知ってみよう！自律と共生を自然に育むオランダのイナプラン教育」
- 5/16 調布市議会 第13回議会報告会
- 5/22 調布市総合水防訓練 視察
- 5/23 外環ネット 地盤学習会 徳竹真人氏



- 5/29 フェミニスト議員連盟オンラインシンポジウム
- 6/4～6/22 調布市議会 第二回定例会
- 6/10 気候変動緊急アクション0610@調布駅前
- 6/19 グリーン・ニューディール政策研究会 気候危機オンライン学習会
- 6/20 チャイルドライツ・カフェ 「子どもの権利を実現することも庁を考える」
- 7/4 外環ネット 外環トンネル事故学習会 大塚正幸氏
- 7/7 川崎夢パーク視察(下写真はNPO法人フリースペースたまりば代表 西野博之さんと26市内の生活者ネットワーク議員)

- 4/22 狛江・生活者ネットのまつぎ淑子市議と



地球温暖化問題に関心を寄せる市民の輪が広がる、ワクワクする瞬間に立ち会いました。脱炭素に向けた市民の連携アクションが始まりそうで楽しみです！